

整理番号	19-51	事務事業名	(精神保健推進事業) 患者・家族会支援事業		作成部署	保健福祉部福祉課	電話	内線810
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名	上村弘志	課長職名	小西洋一	作成日	平成17年6月
事務事業開始年度	昭和50年	根拠法令等	精神保健福祉法					
〃終了予定年度								
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)	精神障がい患者とその家族は、地域や本人、家族自身の無理解、偏見のために適切な治療・療養が受けられず、社会復帰の道も閉ざされていた。互いに学びあい支え合い、社会的地位が向上を促進するために事業を開始。							

1 計画(プラン)

上位施策との関連(総合計画での位置付け)	章	安全で安心できるまち	(第1章)
	節	健康と医療	(第1節)
	施策	保健予防の推進	(第2施策)
目的(ここから成果指標を導きます)	対象(誰、又は何を)	精神障がい者家族会	
	意図(何をねらっているのか、対象をどのような状態にしたいのか)	精神障がい者の家族の自主的な活動を支援することにより、家族の孤立化を防ぎ、精神障がい者の医療・福祉の向上や社会参加促進を行う。	
手段(ここから活動指標を導きます)	市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(団体補助等の場合はその補助金による団体の活動内容を記載)	16年度まで	【精神障がい者家族会「たけのこ会」の活動】 例会(毎月)の実施、レクレーション、学習会や施設見学への参加、交流会、石狩地域協議会家族研修会、北海道精神障害者家族連合会関連の事業に参加など。
		17年度	同上

2 実施(ドゥ)

【事業費の推移】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金				
	道支出金	69	74	45	45
	地方債				
	その他特財				
	一般財源	134	105	122	124
	合計	203	179	167	169
人件費(概算)	人数(年間)	0.01	0.01	0.01	0.01
	1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
	= ×	90	90	90	90
総事業費 +		293	269	257	259

【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指 標	指 標(算式)	指 標 値			
		15年度	16年度	17年度(目標)	18年度(目標)
活動指標 (事務事業の活動量や実績)	会員数	20人	22人	22人	23人
	事業の開催数 例会	11回	10回	12回	12回
	レク・交流会・学習会	7回	13回	7回	7回
	石狩協議会家族会事業	3回	3回	3回	3回
成果指標 (目的の達成度を測るものさし)	事業への参加数				
	例会	85人	108人	100人	100人
	レク・交流会・学習会	110人	113人	110人	110人
	石狩協議会家族会事業	25人	7人	10人	10人
効率指標 (主要活動単位当たりコスト)	会員一人当たりのコスト (総事業費÷会員数)	14,600円	12,200円	11,600円	11,260円

3 評価(チェック)と改善(アクション)

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測・他市町村の動向等	障がい者団体を支援することにより活発な活動が行われ、これにより自立や社会参加が促進し、社会的地位の向上も図られることから、今後も団体の活発な活動は続くものと思われる。
---------------------------------	---

【妥当性の評価と改善の方法等】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	財源確保が不安定な団体の活動を促進するためには市の援助が必要と思われる。	
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	団体の自主的な活動を支援し、継続発展を促す支援を行うことは適切である。	
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。もっと効率的で有効な手法はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	財源確保が不安定な団体が活動していくために活動費の一部を補助するものであり適切である。	
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入) 該当しない		

【有効性と効率性の評価と改善の方法】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない	精神障がい者家族会の自主的な活動に対する支援を行うことにより活動が継続しており、十分成果が上がっている。	
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト削減の方法はありませんか】	十分効率的 概ね効率的 やや非効率 かなり非効率	自主的な活動への支援であり、効率的である。	

【事務事業担当部局内優先度】

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A B C

4 総合判定と今後の方向性

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法を記入】	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	精神障がい者家族会の自主的な活動を支援するものであり、今後も継続する。
【2次評価】	判定	今後の方向性等
行財政構造改革推進本部の総合判定	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	補助金の充当については、事業費補助への切り替えを検討すること。

付 表

補助金・交付金 交付先団体等の状況説明書

整理番号	19 - 51
------	---------

【交付先団体等の概要】

補助金・交付金名	精神障がい者家族会(たけのこ会)補助金		
交付先の名称及び代表者名	たけのこ会 代表 丸山 梅子	設立年	S 5 8
構成員(団体)数	22人 (17年3月末現在)		
交付先団体等の活動目的	精神障がい被害者の家族が協力し、精神保健福祉の普及啓蒙に努力し、社会対策の充実を図り、家族間の親睦を深め、地域社会を明るくすることを目的とする。		
交付先団体等の活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害者の福祉に必要な制度及び精神保健福祉の正しい理解を広めること。 ・会員相互の親睦、福利増進をはかること。 ・各関係機関、団体との連携をはかること。 		
事務局の状況(16年度)	補助団体にある	市役所にある	
補助金等の充当状況(16年度)	運営費のみに充当	事業費のみに充当	運営費・事業費の双方に充当

【交付先団体等の決算・予算の状況】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	
収 入	本市補助・交付金の額(A)	203	179	167	
	会費	84	110	132	
	雑収入	30	72	22	
	その他				
	繰越金	7	3	8	
	収 入 合 計(B)	324	364	329	
	支 出	事業費(講習会,研究会,視察)	170	144	169
旅費		44	47	30	
負担金		81	129	90	
会議費		17	25	20	
役務費		9	10	15	
その他(予備費)			1	5	
		321	356	329	
繰越金	収入(B) - 支出(C)	3	8	0	
全体支出に対する本市補助・交付金の割合(A)÷(C)		63 %	50 %	51 %	
補助・交付金の対象経費(項目)					
補助・交付金の対象経費(金額)(D)		324	364	329	
対象経費に対する補助・交付金の割合(A)÷(D)		63 %	49 %	51 %	
補助・交付金の算出根拠	[17年度予算] 運営費22人×4,500円=99,000円 北海道精神障害者家族連合会負担金3,500円×22人×1/2=38,500円 活動費29,000円 合計166,500円				